

Title	山田盛太郎著 日本農業生産力構造
Sub Title	
Author	常盤, 政治
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.2 (1961. 2) ,p.153(77)-
JaLC DOI	10.14991/001.19610201-0077
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610201-0077">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610201-0077</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

的支配の強化を生み出すとの本書の指摘は、独占企業の発生、発達  
が、一面において多くの弊害を生み出し、重大なる社会経済上の問  
題を造出し、深刻化させている事実を知るわれわれにとっては、深  
く経営年金制度そのものを考えさせられるところにして、この点の  
解決策は、どこに、どのようにあるのであろうか。

これをようするに本書は、経営年金制度自体を、その長所と短所  
について、まず淡々と事実を記述せるところの書物にして、この点  
が特徴であると同時に、なにか批判的な強さにおいていまい少し求め  
たい気がする。また本書の内容は、経営学的な点においては優れて  
いるが、資本主義の問題意識、つまり経済学的な研究の点において  
は、いま一歩踏み込みが欲しい。そして本書は、米国の年金制度の

研究がその内容にして、この点では確かに立派な成果が盛られてい  
るが、さてこれから、たとえばわが国の経営年金制度に分析のメス  
を進めんとする場合、本書があまりに米国的なるために、そのまま  
直ちには行いえない問題が生ずるのであろう。これら若干の点が気にか  
かるとしても、なおかつ本書を読了せる人々は、かならずや本書  
を高く評価して止まないであらう。

(著者は大阪経済大学講師、序四頁、目次五頁、本文二五六頁、  
主要参考文献九頁、索引八頁、昭和三十四年十二月、森山書店、  
四八〇円)

(庭田範秋)

### 新刊紹介

山田盛太郎著

#### 『日本農業生産力構造』

農地改革は地主的土地所有をその根幹にお  
いて解体し農業生産力水準を一段と高めた  
が、農業生産力の発展は零細農耕との矛盾を  
さらに深め、農民層の分解を進行せしめてい  
る。本書は、日本農業のかかる「戦後段階の  
性格を、生産力構造の深層から解明しようと  
試みたものである」(まえがき)。「日本農業  
生産力構造の構成と段階」を総括的にとりあ  
つた第一部と、そこで規定された農業生  
産力の段階規定と地帯構造の規定に従って摘  
出された、千町歩地主地帯と改革前II高位  
生産力地帯における農業生産力の構成と実態  
を分析した第二部の実態把握、及び農業の機  
械化と価格形成を農業生産力との関係でとり  
あつた補論とからなっている。第一部総  
括篇では、「序説」でまず、改革後「劃期的

上昇を記録している農業生産力構造の深部に  
存立する内面的矛盾は抑々如何ようなメカニ  
ズムをもつか(五頁) という問題点の提示  
が行なわれ、第一項では明治初年における原  
生的段階の生産力構造の原型が、耕耘労働手  
段体系から示され、その上で、資本蓄積が農  
村の内部で行なわれるか、外部との連関で行  
なわれるかによって東北型と近畿型という  
「地主的土地所有下の基本的農業地帯」の構  
成が与えられる(一七頁)。第二項「農業生  
産力段階と地主的土地所有の構成」では、地  
主的土地所有の生成・展開・転換過程が詳細  
な数字的資料の分析的整理によって明らかに  
され、第三項「農業生産力構造と『改革』後  
の段階」では、「農業生産力構造の地帯構成  
と構造変化」、「農業生産力段階と改革後、農  
民層分解の性格」という二つの指標を掲げて  
分析がすすめられる。第三項の前半では、東  
北II新潟の千町歩地主地帯の成立と西南・  
改革前高位生産力地帯の成立に示される地主  
的土地所有の歴史的意義と限界が規定され、  
後半では、改革後における農民層分解の諸要  
因を問題にしなが、分解の分岐線、富農規

定線を検出し、農民層の階層区分が試みられ  
ている。そして、改革後の農民層分解の進行  
のなかに、日本農業が零細規模の制限の枠を  
突破する必然が準備されつつあるという展望  
が与えられている(二二〇頁)。山田盛太郎  
著となつているが、同氏を主任研究者とする  
十余名にのぼる農業経済のエキスパートの共  
同研究の成果で、現段階における日本の基本  
的農業地帯の生産力構造を組織的な実態調査  
と豊富な資料分析によって総括的に明らかに  
した貴重な労作である。(岩波書店・A5・  
四二七頁・一一〇〇円)

—常盤政治—

#### 『講座・日本の労働問題』

##### (一) 賃金

本書は、舟橋尚道、藤本武西氏の編集のも  
とに、教氏によって執筆されたものである。  
編者によると、本書の主眼は「従来の賃金  
論研究において欠けていた分野」の開拓とし  
て、とくに「日本資本主義のなかでの具体的  
な賃金問題の究明」を行なうことにある。

### 新刊紹介